第 10 回　議員定数等議会改革推進特別委員会記録

日時：令和 2 年 7 月 14 日(火)
09 時 58 分～11 時 31 分
場所：第 4 委員会室

【出席者】　牛尾委員長、西川副委員長、沖田委員、小川委員、笹田委員、佐々木委員
西田委員、西村委員
【議長・委員外議員】
【事務局】　古森局長、下間書記

議　　題
1　議員定数等について
・アンケート結果を踏まえての各会派等での定数に関する考え方

2　その他
・アンケート結果の議会だより掲載案について（9 月 1 日号）　資料 1

〇次回開催　　7 月 27 日（月）　本会議終了後　　第 4 委員会室

【議事の経過】

（開議　09 時 58 分）

牛尾委員長　第 10 回議員定数等議会改革推進特別委員会を開会する。本日は全員出席である。

議題１　議員定数等について

・アンケート結果を踏まえての各会派等での定数に関する考え方

牛尾委員長　今回は会派で話した内容について、まとまっていればその内容を、途中であれば途中経過を報告していただきたい。西田議員から。

西田委員　創風会の話し合い結果を報告する。

本来、議会はチェック機能だけでなく、提案精度を高めることが全国的にも求められている。議員定数を減らすだけでは議会の権能は高められないという声があった。しかし今回のアンケート結果を見ると現状維持はあり得ない。18 人では浜田市の現状、議会活動、チェック機能などを果たすには厳しい。では 24 人から何人削減すれば良いかというような削減論より、今の議会としての機能を発揮するためには、何人が最低でも必要という下からの積み上げ論での議論が重要である。しかし市民アンケートにあるような、市民の意思は尊重しなくてはいけないし、一定の反映はすべきだという意見があった。

よって最低でも 2 人、できれば 4 人削減するのが望ましいのではないか、という声が出ている。

中には報酬を減らして定数を上げたらという声もあったが、それは論外だった。

また今回の定数に関して、各議員の考え方をまとめたものを市議会ホームページに公開してはどうかという声もあった。結果的には 2～4 人の削減、どちらかというと 4 人の方が強い意見だった。

笹田委員　山水海も議論した。正直申し上げると人数は完全には積み上げていない現状であり、考え方について議論した。定数を考えるにあたって、人口割や面積割よりも、やはり常任委員会の数や議会機能から考えるべきだという意見が多かった。今回、自治区制度も新しい制度に代わるにあたり、旧那賀郡の方々が不安に思われている状況も見ないといけないため、急激な削減はいかがなものかということもあった。

具体的な数としては創風会も言われたように 20 人前後。アンケート結果からすると現状維持は難しいということで。22 人か 20 人というところで今のところ話はついている。

西村委員　私は 1 人なので私個人の意見になるが、平成 24 年に議論した時の議会だよりの討論ページを見ているが、基本的にはその時の考え方と変わらない。市民の意見としては確かに、20 人や 18 人、あるいは 16 人というのもあった気がする。削減ありきという感じで受け止めたが、私は一般論として、議員数を減らせばそれだけ多様な意見が反映されなくなるこ

とが決定的にあると思うので、できるだけ削減したくないという考え方がまずある。

そういう意味では 24 人より上にいきたいのだが、今のご時世でそれはやはり難しい。結論から言うと 24 人にとどめたいのが私の思いである。市民の意向では圧倒的に削減が多いがそこがどこからきているのかと。前回もだが、24 年の時も感じたが、そこがよくわからない。あえて結びつけるとしたら、非常に議員に対する不信の思いというか、議員が一生懸命やっていないと受け止められているのではないかと思うのと、もう 1 つは他市との比較。ある意味根拠があってないような部分があり、アンケートを取ると圧倒的に削減が多い流れになっているだけで、そこが市民と話し込んでいけば、かなり理解が深まってくる部分はあって、逆に言うと溝が埋まっていく可能性があると思っている。なるべく削減しない方向で、多様な意見、市民の声を議会に反映する意味で削減したくない。

もう 1 つは、常任委員会の積み上げ方式の考え方で、これは感じ方もいろいろあるのだろうが、私は委員長を含んで 1 つの委員会が 8 人、というのが今まで経験した感じではベストかと思っている。それ以上増えても、実りあるようにも思えないし、少なすぎても多様な意見を反映できない、よって 8 人程度が良いのではないかと思っている。

3 常任かける 8 人で 24 人。

もう 1 つ言わせていただくと、一般質問が人数的には非常に活発で、計算すれば平均で、1 回で 20.6 人だった。そうすると 21 人は死守したい。それに議長を足せば 22 人、これ以下は賛成できない。まかり間違っても賛成できないという気持ちだ。

沖田委員　私は笹田委員と同じ会派なので同意見だが、しいていえば、西村委員の意見にもわかる部分がいっぱいある。

僕も常任委員会の積み上げに賛成で、定数が 20 人とういうことになると、1 委員会 5 人や 6 人で機能するのか疑問がある。今 8 人いるものをいきなり 5 人、6 人にするのは乱暴かと思う。

佐々木委員　公明クラブでは考え方を中心に話をした。アンケートを取るまでは、先ほど話が出たが議事機関としての機能を果たすためには審議できる数、多様な層の議員が必要という考えできていた。議会だよりのアンケートを取った中にも考え方として、そういった文言が挙げられている。この考えは定数を考える上で根本になる考えだと思う。しかしアンケートをして、前回とは少し違ったニュアンスもあったのだが、やはり議員への不満、要望を中心に、何をやっているか見えないといって、なかなかアンケートにならなかったというのが率直な感想である。

しかしアンケートを参考にしないわけにはいかない。常任委員会の積み上げという話もあったし、いろんな識者の方が 6 名から 8 名でないと審議が進まないというのが一般的な意見だと思う。

西川副委員長の案として、資料があったが、浜田市議会において委員会審査の場でどれだけの質疑があったのか調べてみた。結果、西川副委員長の意見と同じだが、質疑した議案のみ取り上げて、1 議案あたりどれだけの人が質疑したかを見ると平均で 2 人、これは各委員会とも同じ結果だった。アンケートにもあったが、なぜ今の定数が必要か、その理由を説明するとなると、今、識者の言うようなことはなかなか市民には通じない。現実問題として浜田市議会に委員会の場でどれだけの議論があったかという委員会の場の審議人数が 2 人となると、せいぜいその倍で 4 人、あるいは 5 人なら、市民の皆さんに説明する人数として言えるかと思う。あながち 16 人という数も見当違いにはならないような感想を持った。したがって、アンケートを取っても我々がやっていることは分からないので、これをそのままというわけにいかないが、市民に説明する中ではこういったことも踏まえてやっていかないと理解に通じない。

もっと言うと、今日の新聞にも出ていた安来市も、市民と対話しながら定数を検討されている。なかなか現実的な数が我々も判断しにくいと思っている。ただ、数としては出せなかったが、極端に減らすのは今までの流れからしても苦しい。かといって現状維持も難しいという考えだ。

小川委員

定数についてきちんと確保しなければならないというのは会派で確認している。その人数はなるべく 24 人にしたいと、24 人を死守しなければならないというところまでは、まだはっきりしていない。

ただ、佐々木委員が言われたように定数の考え方については、熟議の機関、議会の機能として、さらには合議の場として、さまざまな意見を反映するには一定数いないと機能が果たせないため、ある程度の数は必要である。

アンケート結果に対する分析と評価は必要ではないか。アンケート自体はあくまで参考意見であって、それに縛られる必要はないのではないかという意見。結論的に言うと定数は議会が独自性を持って決定すべきだが、出された意見は当然尊重しなければならないし、それにそった取組も必要だが、定数についてはアンケートで多い意見をただ採用するには結び付きにくいのではないか。

定数削減の意見の中には人口、財政、面積等もあるが、結局コスト論ということから定数を考えるとあると思うが、効率化や削減ありきの考え方は、議員定数に関しては馴染まないのではないか。というのも間接民主制を取る以上、誰かにゆだねる一定コストは必要であり、合議制には一定人数がいないと幅広い意見は集約できない。

今回のアンケートは若い人の意見も多かった。24 人の現行で良いという意見があったとしてもアンケートに出にくく、それより減らす意見のみが反映されやすいような形だったと思う。

アンケートには減らすべきだという中には、議員の活動が見えないという意見も多かった。市民と議員との距離感にかなり隔たりがあるとす

れば、ここをなんとか改善して、議会としての自主性、議員の存在感、市民の安心感を与えられる何らかの取組はぜひ必要ではないかと感じている。

それらを通じて、議員も市民との接点を増やすことが必要で、そういうことを通じて、議員の資質を引き上げることにもつながると思う。

結論として人数までは確認できていないが、考え方としてはそのように話した。

牛尾委員長　西川副委員長から、本日の資料について説明を少しいただきたい。

西川副委員長　資料をご覧いただきたい。定数を考える点については、研修や資料を読んでもシンプルで、委員会の数と常任委員会の人数に尽きる。どのような理由づけをするか、各議会で議論されている。

（　以下、資料をもとに説明　）

最後にまとめとして、常任委員会の数は現行どおり 3 つで良い。常任委員会の構成委員は他市を見ても、だいたい6人から８人と書いてある。先ほどの類団でも 6.8 人だった。今浜田市議会として、議会改革を進めていく上では、6 人が良いのではないかと個人的には思う。定数削減によって広聴機能が損なわれないように選挙区制度も議論が必要かと思った。人口減少に合わせて議員定数も削減する時期であると考える。また類団の平均議員定数が 18 人であることは参考にすべきだと思った。また、定数削減にあわせて議員報酬の改定も議論すべきと感じた。よって私の考える議員定数は、委員会の構成 6 人かける 3 常任委員会、プラス議長の合計 19 人を提案します。

牛尾委員長　我々の会派未来では２回話したが、数の集約には至らなかった。

その前段で、今回のアンケートも 3.5 パーセントという低い数字ではあったが、市民が何を求めているか副委員長も言われたが、あの程度の委員会審議なら議員は要らない、レベルが低い、そのような意見が結構見受けられた。

やはり、市民が求める議員像は、我々があぐらをかいている訳ではないが、もっと自分たちのやっていることを厳しく見つめてレベルを上げるのが当たり前なのだろうと。ではどうやったら議員の資質をあげられるのだろうかと。会派内の勉強会や、議会の開催回数をもっと増やすといったことをぜひやるべきだろうと。

議員の顔が見えないという投書もいただいた。議員が何をやっているか分からないと記事を書かれた。議会報告会をやっているが、議会報告会をやったことだけで満足しているのではないか。とりあえずやるしかないという意見もあったが、今回のアンケートを見ると、もっと細かく、小さく、各地で議会報告会なり懇談会をやらないと我々への理解は深まらないという議論をした。

当然、議員定数についても議論したが、考え方として、有権者は前回の選挙から 1000 人ちょっと少なくなっていて、それほど落ちていないと

いう考え方。人口 53,000 人で考えると、市民１人あたり 2500 円が議員コストであり、24 人という数が財政的に迷惑をかけているわけではない、といった議論を延々して結論は出なかった。

ただアンケート回答数は少ないとは言え、一定程度は減らすのもやむを得ないのでは、という部分から先へは進まなかった。

定数の絞り込みについては平行線で終わった。

それでは、すべての会派にご意見を聞いた。ゼロでは難しいだろうという考えが多かった、一方で、議員定数は議会自らが決めることが原理原則である。

議長が先日も、削減ありきではないと言われた。しかし、どうしても削減ありきでないが、削減が皆の頭にあって、避けては通れない。

基本的に常任委員会が何人ならよいか。常任委員会プラス議長という考え方が、前回 24 人を決める際にも、常任委員会７人かける 3、プラス議長で 22 人と、24 人は常任委員会８人かける 3 で 24 人ですが、この 24 人の考えが最後まで競って 24 人となった。

常任委員会に最低この人数が必要で、プラス議長という考えで 19 人、その上が 22 人、そういう考え方がベースにあった方が良いのかなと。ベースの考え方がまちまちだとまとまらないので、どこまで行ってもまとまらないので、そういう考え方でどうか。

笹田委員　今日、初めて他の会派の考えを聞いたわけだが、委員会が機能して定数を決めないといけないのは間違いない。委員長が言われたように、どういう基準で決めていくかをまずこの委員会で決めていただき、それを順番に穴埋めしていって皆が納得できる数にしていけば良いと思っているのだが。

今、聞いた限り、常任委員会の数にしても定数にしても、そういったところから議論していって皆が納得できる形で議論すべきかと感じた。

牛尾委員長　24 人全体の問題なので、１人１人の意見を尊重してなるべく意向に沿う努力はする必要があると思う。皆から出た意見を受けてまたご意見があれば伺いたい。ざっくばらんに。

笹田委員　西川副委員長がよくまとめられていて勉強になった。やはり、常任委員会の数について、2 と 3 があった。浜田市は何を基準に、何をベースに 3 常任委員会とするのか、その説明も必要だろうし、その定数はなぜそれだけ必要なのかという基準になれば、ある程度理解はしていただけるのではないかと思った。そうすると面積が広いという意味で、浜田市は自治区制度を採用していることもあり、常任委員会が 2 つでは少ないのではと８年経験してきて思う。

だから最低３委員会は必要だと個人的に感じている。

人数は、少なすぎても多様な意見は集約できない。極力思い切って減らすというのではなく、しっかりした委員会議論ができる定数は残すべきだと感じた。

西村委員　気になっている点、突っ込まないといけないと感じる点の１つに、議員の資質というか、議会改革の視点をもっと市民に理解してもらう努力が足らなかったのではという思いがある。

せっかく力を入れて改革してきたのに、それが理解されていない部分が非常に大きいと私は感じている。例えば一般質問で、28 人の時代と 24 人の時代と回数がどう違うのか。そうすると 28 人の時よりは、24 人の方がのべ回数が多い。今は 20.6 だが、28 人の時代は 18.1 人なのだ。だから今はほとんどの人がやっているが、28 人の時代は 10 人くらいやっていないわけだ。延べ人数だが私は調べた。例えば、そういうこと１つ取っても、市民に理解してもらうための具体的な手立てを取ってきたか。どれだけの市民がそれをきちんと理解しているか。そこがまず１つ欠けているのではと思った。

もう１つは他市との比較で言うと、類団の真庭市の一般質問人数を調べたら、あそこも 24 人だが、うちは４年間で 309 人、真庭市は 56％が一般質問している。うちは 86％。随分違う。だから他市との比較というが、人口と面積の単純な比較をして、中身を全然比較していない。僕らも市民も。比較材料がないので、何となくぼんやりと、定数だけで比較して答えてしまっているのではないか。それで、それを尊重しなければということで私らがそれをもとに、1 人削るか 2 人削るかという話をすることに疑問を感じている。こちらがイニシアチブを取って、与えなければいけない情報も十分に与えないままアンケートを取って、その結果にある程度従わざるを得ない。身から出たさびとはいえそれで良いのか。今になって言うなと言われるかもしれないが。

牛尾委員長　質問パーセントについては、市議会概要に掲載しているが、市民に対して示していない。他にご意見は。

小川委員　議会改革、当初は議会報告会の場で正副議長から冒頭に報告してもらいながら、議会の姿勢を示して賛否や声をいただくことにしていたが、今回はそうならなかった。会派で話したのだが、二元代表制や議会の位置付けは、市長と対等な立場ではなく、附属機関というイメージが市民にとっては強いのかなと感じた。地方自治の本旨をよく言われるが、住民自治・団体自治を高めるための努力は、なかなか市民の方に見えるものが少ない。これをやったから高まったというのがわかるものでもない。

しかし目的とすれば、議会の活動の目的は地方自治の確立だと思うので、足らない部分を少しずつ補うのが課題である。

定数とあわせて、議員になる意思を問えば、なかなかそういう方はおられないようにも感じる。議員にはならないが、議員はこうあるべきだという意見に集約されがちなのかと感じている。そういう意味から市民と議員の距離感を埋める努力。今までいろいろな議会改革や議会だよりの紙面の工夫など精一杯やってきたが市民には伝わらない。いくら一生懸命やったとしても、だから今の定数が妥当だという評価はなかなかい

ただけないのだろう。そうすると、そこを埋める努力、アンケートの結果を分析して、市民との接点を増やす、チャンネルを増やす、安心感を持っていただけるようなもの、あそこに行けば議員がものを言える場があればかなり、市民の見方も違ってくるのではないか。

佐々木委員　先ほど委員会は３つという話があった。統計上もこれくらいの人口・財政規模でいくと、ある程度専門性が保たれないと審議が深まらないので３つが妥当だと私も思っている。

議員の数だが、浜田市議会はずっと偶数で来ている。その理由は、賛否が偶数になった場合に議長が判断しなければならない。通常これだけ批判が多い案件について議長判断は難しく、否決が妥当だとされる。そういうことがないように今までどおり偶数の方が、いざとなった時に判断が通しやすいのではないかと感じている。

今回のアンケートにも露骨に出ていたが、議会内容、あるいは議会外で議員が何をしているか分からないという声にどうやって答えていくか、全国の議会が抱える大きなテーマだと思う。かといって、できることはもっとあると思う。

この前少し話が出たような、輪番制で公民館に出かけるとか。今回のアンケートでも、市議会にどうやったら意見が届くかの問いで、多いのは議員が地域に出向いて声を聞く、これは個人の活動もあろうし、議会として当番制で地域を回る、意見交換会など意見を聞く場を持つ、アンケート実施してほしいという声もあった。

残念ながら議会報告会、井戸端会の開催を望む声は少数だった。それだけ面白くない会になっているという証拠である。市民が望んでおられる最初の３つくらいをもっと深めていけば、議会活動あるいは議員個人の議会外の活動を知っていただけるのではないかと思う。

もう１つ、個人や会派の議会だより、個人では皆やっておられると思うが、政務活動費を使ってこれを発信する流れが今までとは違ってきている。これで議員のことを知ってもらうことにつながっていくべきだという話になっている。ただ、今までみたいに写真や所属の党についてというのは難しいが、これで多くの議員が多くの市民に動きを発信すると、平素の動きが多少なりとも伝わると思う。

これは政務活動費との兼ね合いになるので議論も必要になると思うが、そういう方向性も中身がある活動ではないかと思う。

西田委員　佐々木委員も言われたように議会報告会や井戸端会は積極的に、年に２回やっているが、だんだん参加者がパターン化して来られる方が限られてきている。そこを突破しないといけない。

市民の関心が一番大きいテーマについて、討論会等、議員自ら出かけて行って、若い人、高齢者など市民の意見を吸い上げる、議員と市民が膝を突き合わせる会が必要だという意見が会派でも出ていた。

今までも議会報告会では各種団体と議会とのやりとりもあったが、そ

ういった議会側からすでにあったことを報告しても皆興味がない。参加者が限られてくるので。例えば、議員定数についてでも良いし、市の行政的な大きな議題でもよい、市民が一番関心を持つタイミングで市民の率直な、いろんな意見を聞く会を、より細かくやるともう少し生の声が議会へ届くのではないか、という意見があった。

全国の同じような自治体の中で、副委員長の資料にも類似団体があるが、財政規模も参考になるのかなと。類似団体の財政規模も１つの参考になるかと。浜田と益田でも、益田は 250、260 億円で浜田は 400 億円近い。事業の内訳もたくさんある。どのようにチェックしていくかも１つかと思う。自治体によってはケーブルテレビで議会を放映すると一般質問の確率が高くなる。浜田もそれによって大きく変わってきたと思う。

牛尾委員長

先日、境港市が議員定数を議論するのに、商工会議所の関係者だったと思うが、境港は特定第三種漁港を持っているのでそれを配慮してもらわないとならないと、ということがあった。浜田も考えてみると特三もあり重要港湾もあり、一般の市とは違うので、もっと僕らも勉強しなければならないし、普通の市とは違うのだと。

どのように定数問題に踏み込んでいくかは１つの課題だと思うが、いずれにせよ全ての市民との合致点はない。

やはり最終的には浜田市全体を考えて、議会として議員定数を判断する。ある時期にスケジュールに乗って提案できるようにしたい。皆の意見を聞く限り、もっと自分たちでできることがあるということだ。地域に出向いて座談会をするのが良いのか、毎週月曜日に図書室を開けて、議員何でも相談室を開くとかいろいろあるが、議論だけでなく、議会全体を巻き込んでやるとすぐにというのは難しいから、例えば特別委員会だけでも、そのような切り口でモデルケースみたいな形でやるのも手かと思う。

市民との懇談会も、例えば月１回であれば、議員２人が１チームなら 12 組できる。年１回で済む。それは頻度をあげれば、月２回すれば、年２ 回することになる。議会報告会との兼ね合いをどうするかということにもなるが、今回のアンケートをしたのは特別委員会であるし、その中で一番不満が多かった部分をとりあえずやってみるというのも考え方としてあると思う。定数と相関関係もあると思う。

笹田委員

委員長の言うとおりである。

やっていることが伝わらないというのは永遠のテーマである。議会報告会はだいたい同じ人が来る。新しい人の掘り起しができてないので、そうすると何か変えていく必要がある。急に変えていくのはとても難しいと思う。

今、思うのは、議会だよりが変わってきた。表紙も変わり、若い力が入ってきて、市民への伝え方が変わってきた。この委員会とあちらは常任委員会ですが、連携して、広報広聴につながる部分だと思うので、そ

ういった意味では早急に副委員長は同じなので、連携して何かしらできることから始めたらいいと思う。

今、議員定数ということで、アンケートで、財政状況を指摘する声も多い。財政そのままで増やすなら賛成する人もいるかもしれない。減って喜ぶのは市長である。しっかり議論すべきところで議論する場合に、数が減ると自分のやりたいようにやりやすいというところはしっかり考えるべきだと思う。

小川委員　前回、委員長が言われたよろず相談室はとても良い。実感したのは、6 月定例会議で、3 つの請願・陳情についていろんな意見を聞かせてもらった。やはり地域やグループと関わっていない議員からすると蚊帳の外。議員 24 人いればどの地域だろうと、どの団体だろうと、そこからの意見が聞ける安心感、選出される地域性もあると思うが、出たからには 24 人が、全市民を対象にやる。自分が選出されたところだけではなく、その姿勢もおそらくアンケートの指摘要素としてあると思う。そういうところの払拭のためにも、議員が相談室で待機し、いつでも来てくださいというような、スパンはわからないが、姿勢を示すのが大切ではないかと思う。委員長が提案された内容はぜひ実現するべきと考える。

佐々木委員　財政上で定数を減らすのは、議会改革でも何でもなく、むしろ後退である。その中で、仮に現行でいくとして、市民が望んでいるのは、自分らの考えをどうやって議員が反映させてくれるかが 1 番の要望だろう。そのルール作りがいかにできるかで。それが市民にとってやってもらっているなという反応が出れば減らす必要はない。

先ほどの当番制の意見を聞く会もそうですが、今後こういうことを始めましたということが市民の声を聞く、それを議会に生かす場になれば、大きな評価として出てくるだろう。

また議会報告会に決まった人ばかり来るという件だが、先進地事例を見ると、議会報告会で出た意見に対する反応が早い。ある議会には 2 か月後には必ず回答を出し、市民により伝わった感を与える。やはり議会報告会の後の処理、どう活かすか、反応の速さをもう少し考えるべき。次にどういう評価をもらうために何をするかによって、削減というような、アンケートの結果にも差が出るのではないかと思う。

牛尾委員長　最初の絞り込みにはもう少し会派で継続して。持ち帰って議論してもらいたい。

市民との接点が我々に、データで見る限り大きく欠けていた。普段市民と話をしていても、もっと深い意味での交わり方を求めている意見が約 4 割ある。その部分を何とか打って出る。

議会全体というのでは時間がかかるので、局長に相談だが、例えば今ここのメンバーだけでも良いので地域に出かけて行くことは、特別委員会の権限でやれるだろうか。とりあえずやってみたいので取り掛かるのは問題ないのではないか。それを議会全体でやるとなれば改めて協議す

る。やるとすればそれが手っ取り早い。

古森局長　あくまでも議会改革の取組の前段としてということか。

牛尾委員長　そう。議会改革の取組として、どうやったら議会改革かということで、そういうことをする。合わせて今回のアンケートでも、こういったブーイングを払拭するためにやっていく。それなら問題ないように思うのだがどうだろうか。

沖田委員　いろんなところに出向いて話を聞くのはごもっともだと思う。今日いろいろ話をする中で、市民感覚からすれば、そもそも委員会とは何か、というところから来る。議会とは何かという意見も多かった。まず議会を理解してもらう、それこそ初歩的なことから始めないとこの溝は埋まらないように思う。

やるならやるで、意見を漠然と聞くとなるといろんな意見を持ってくる人がいる。やはり、こちらが何か、目的やテーマを定めないと、ただ漠然とやってもいけないように思う。

牛尾委員長　この際何を言われても、市民の声に耳を傾けることが求められている。基本的なことを求めているのではなく、今市民が不満に思っていることを直接伝えられるような場所が欲しいというのだから、それをどう政策に反映するかが僕らの受け止め方だと思う。

古森局長　今の話を聞くと、御用聞きのような形になったら全然意味がないので、その辺は何らか、何を求めて来てもらうかは何かないと厳しいかなと思った。

それから申しわけないが、今、議会改革の話に進み始めているので、定数の話に絞って議論していただきたい。

牛尾委員長　だから今、言ったように今日の意見を持ち帰ってもらって、まだ決まっていないところは議論してもらい、それに合わせて、議会改革でそのようなことをやる必要があるのではないか。定数については再度持ち帰って会派で積み上げてもらって、結論的なものが出れば持ち寄ってもらう。

笹田委員　委員会としてどのように議論してほしいか、各会派に伝えるべきだと思う。人口割か、面積割か、順序を決めて議論してほしいと言ってもらえば会派でも議論しやすい。どのような観点から議論してくれと言ってもらうとありがたい。

牛尾委員長　ものさしをどこまで広げようか。常任委員会の考え方。常任委員会は大方、3 という意見が多かったと思うが。あとは財政。

笹田委員　西川副委員長の視点は非常にわかりやすい。順番をこの委員会で決めて議論するのはどうか。資料 2 ページ。おのずと各会派から数字が出てくると思う。

牛尾委員長　市民の視点から考えるという項目がある。これに何か。

古森局長　(1) も含めて。

牛尾委員長　(1) 議会の機能から考える、(2) 市民の視点から考えるというのをベ

ースに再度持ち帰って議論してもらう。これにプラスするものがあるだろうか。

西川副委員長　特三があるといった市の特色。

牛尾委員長　浜田市は特三と重要港湾を抱えているという意味で他市と違う。それも考慮に入れてもらって。

笹田委員　（3）としてそれを入れてもらって。まとめていただきたい。

牛尾委員長　特殊性について話が出たが、それ以外に持ち帰って議論する際に考慮したい点、考え方の柱に入れてほしい点はあるか。

小川委員　支所機能、地域協議会があるから議会は不要というニュアンスの意見があった。議会とそこは違うという点も何らかの形で訴える必要があるのではないか。それが定数を考える根底にもあるのではないかと思う。選挙によって選ばれた議員が、責任を持っていることを訴えるということが気になっている。

西田委員　地域協議会やいろんな組織・団体は、いくらあっていくら議論されても良いが、議会に代わるものではない。議会には議決権がある。そこが一番の要。チェック機能と議決を責任もってやる。それは他組織にはない。そこだけは要である。議会としての役割り、議会の能力を発揮できる人数は必要である。

笹田委員　②がそれにあたるように思う。議会は別組織である。それをのけても広聴機能が果たせるか。理論づけて定数を決めるべき。

佐々木委員　憲法にも議会設置が謳われている。他団体とは位置づけが全く違う。そこは自信を持って進めるべきである。

牛尾委員長　協働のまちづくり条例の説明会があったが、市民が錯覚を受けるような条例の書き方のように見えたのであえて言ったが。

西田委員　定数の 24 人の過半数ですべてが決まってしまう。極端に 16 人になれば 16 人の過半数が市の方向性をすべて決めてしまう。400 億の事業、予算をその人数で決めてしまうことになる。そういう意味で定数は重要である。

牛尾委員長　多様な意見を吸い上げるためには何人がベストなのかということになる。やはり常任委員会の積み上げが分かりやすいのかもしれないが根拠を示すのは難しい。

市長が暴走しないために議会はある。そうなると議員に幅が必要だが、何人なら良いといったことは言いにくい。あとは僕らが定数を決めるポジションにあるわけだが、信念と責任を持って定数を決めるしかない。批判はあるだろう、それはそれとして役職を全うする。何度も言うように、議会改革をやってきているのに、議会は何もしていないということを言われるとやはり市民のフィールドへ出て対面で話をしないとならないのかと思う。まだその程度しか理解されてないのだとすれば腹が立つ。出かけていってきちんと説明しなければいけないのだろうと思う。

とにかく議会は逃げも隠れもしない、出るべきところへ出て「我々の

議席はこれくらい必要だ」と言い切ることが大事なのだろう。そのためにはやはり、西川副委員長が提案してくれた中に、もう１つ（3）をつけてということで。

佐々木委員　今回アンケートした以上はそれを反映させることはしないといけない。人数だけではなく、意見を取り入れて反映させる。それが市民に対する我々のあるべき姿だと思う。アンケートを受けて今後こういったことを取り組む、そのためにこの人数が必要だということも併せて会派で上げてもらえば今後の議論につながる。

西川副委員長　（2）があのアンケートを受けてという意味合いなので。

佐々木委員　アンケートをしっかり読み込んで。

牛尾委員長　前回も減らさなかったという意見があるが、前回減らしている。

では（1）から（3）まで、持ち帰ってもらって各会派でまとめができればしてほしい。

笹田委員　そのまとめは事務局から各議員にメールで送ってもらいたい。

下間次長　はい。

議題２　その他

・アンケート結果の議会だより掲載案について（9 月１日号）

牛尾委員長　掲載案について。

西川副委員長　（　以下、資料をもとに説明　）

牛尾委員長　今の件はよろしいか。

下間次長　持ち帰ってもらうか。バラバラに言ってもらって。

牛尾委員長　次回だが、臨時会議の後にはできないだろうか。

（　以下、日程調整　）

では、臨時会議が終わってから特別委員会ということで。

下間次長　議会だよりの件は、修正や要望があれば７月 27 日までに、私へ言ってもらいたい。

牛尾委員長　この紙面なら、これにプラスはできなさそうだな。

下間次長　それぞれが言ってきたものを、この委員会は介さず入れるということで良いか。他に改善点はないか。広報広聴でも少し直しが入るかもしれない。データをいじることはできないので、このデータを載せて良いか、他のデータも必要ではないかとか、市民からの意見の文字を増やすべきとか。そういった指摘があれば。紙面が限られているので、QR コードを読むとアンケート結果に飛べるようにはなっている。

牛尾委員長　では、そういうことでよろしいか。あとは事務局からないか。

その他、各委員からないか。

（　「なし」という声あり　）

では第 10 回の特別委員会を終了する。

（閉議　11 時 31 分）

浜田市議会委員会条例第 65 条の規定により委員会記録を作成する。

議員定数等議会改革推進特別委員会 委員長　牛尾　昭　　㊞